

年間指導計画および評価の計画作成にあたって

本資料のねらい

本資料は、平成28年度版 光村図書「中学書写」を使用するにあたって、年間指導計画を作成する際の参考資料となることを意図して作成したものである。

平成28年度版 光村図書「中学書写」は、学習指導要領に基づき、その基本的なねらいと教科の指導内容を十全に生かすべく作成されている。したがって、年間指導計画および評価の計画の作成にあたっては、それぞれの学校が新しい教科書を活用して、学習指導要領の基本的な考え方と目標をいかに各学校の実態に応じて実効性のあるものにするかという点に配慮されたい。

指導計画の作成について

指導計画の作成においては、教科書の構成や配列を十分に生かすことと、それを各学校・学級の実態に応じてアレンジすることとの両方が求められる。そのためには、教科書の各教材の特性を、想定されている指導内容・学習活動の面で捉え直し、その特性がより生きるように、自校の教育計画と合わせて指導計画を立てていくことが大切である。その際、例えば、次のような観点に立った計画が考えられるだろう。

- 既習の学習経験（小学校での学習を含む）や身につけた力を考慮して
- 学校独自の「総合的な学習の時間」との連携を図って
- 他教科との関連を図って
- 学校行事や地域の行事との関連を図って
- 年間を見通した「帯化」した扱いで

評価計画の作成について

評価に関する計画の作成については、計画的に評価活動を実施し、継続的に学習活動全体の習得状況を把握することと、生徒一人一人の学習状況を理解して個に応じた指導の資料として活用することが求められる。

このように考えるとき、評価に関する計画は、指導計画の作成の中に組み入れることが望ましいと考え、本資料の中で例示した。

本資料における評価項目は、学習指導要領の指導事項をもとにして作成している。その教材の特性を生かし、想定される「主な指導事項」と「学習活動」の具体的内容に沿って、「おおむね満足できる」状況の例を示している。ただし、生徒一人一人に表れる学習状況の高まりや深まりは多様であると考えられるため、ここに示した評価例はあくまでも一つの目安として用いるようにされたい。

配当時数について

学習指導要領には、各学年における国語科の配当時数と、そのうち書写に配当する時数の目安が定められている。平成28年度版「中学書写」教科書では、この時間数を踏まえて下記一覧表に示したような配当時数を設定している。なお、教材ごとの詳細な配当時数については、p4「各学年の指導事項と授業時数の配当（1～3年）」を参照されたい。

学年 時数	1年	2年	3年
国語科総時数	140	140	105
「書写」の時数	20	20	10

本資料の構成要素

この資料において配列・構成した要素は、以下のとおりである。

1	2・3・4	5	6	7
月	単元名・教材名・指導目標	時数	学習活動	評価規準
適宜	文字と出会う (教科書 巻頭) ◎書写学習の意義を理解し、学習意欲をもつことができる。	適宜	1 詩「文字と出会う」を読んで、これまでの自分と文字との関わりを思い起こす。 2 文字を書く価値や書写を学ぶ意義、手書き文字のよさなどについて話し合う。	【関】積極的に話し合い、これから始まる書写学習への意欲を高めている。 【知】書写学習の意義を理解している。

- 1 月 ——— 学習する時期を月割りにして示している。
- 2 単元名 ——— 各単元の単元番号と題名を示している。
- 3 教材名 ——— 各教材の名と教科書の該当ページを示している。
- 4 指導目標 ——— 各教材の主たる学習場面であり、確実に身につけることが望まれる指導目標を◎で、主たる学習場面はほかにあるが、そこで学習することでそれを支えたり定着させたりすることが望まれる指導目標を○で示した。また、関連する学習指導要領の指導事項を末尾の「 」内に記号で示している。
- 5 時数 ——— 教材ごとの学習に必要と考えられる所要時数を算用数字で示した。毛筆と硬筆に分けて示しているが、毛筆・硬筆を一体化させた指導の工夫を前提とし、学校・学級の実態に応じて展開されたい。なお、授業時数の1単位時間は50分を想定している。
- 6 学習活動 ——— 教材ごとに、生徒が実際に活動する場面を想定し、学習活動の流れを段階に分けて端的に示した。
- 7 評価規準 ——— 学習活動に即して評価規準を観点別に例示した。規準は、その単元・教材において身につけさせようとして指導した能力について「おおむね満足できる」と考えられる状況を、一人の生徒の姿として想定したもので、学級全体の「到達度」を示すものではない。「おおむね」とは、その学年の生徒の行動・判断・思考の力として期待しうる状況で、指導の成果として「満足」し納得できる内容である。

評価内容は、次の三つの観点について設定している。

- ①【関】…書写への「関心・意欲・態度」の評価。生徒が書写学習に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を身につけているかを見る。
- ②【知】…書写の「知識・理解」の評価。
- ③【技】…書写の「技能」の評価。

各学年の指導事項と授業時数の配当（1～3年）

学年	図書の構成・内容	箇所	学習指導要領の内容			時数
			伝統的な言語文化と国語の特性に関する事項 (2) の記号	(1) の記号	その他の記号	
適宜	・文字と出会う ・目次	巻頭 P2-3				
	基礎編					
	・書くときの姿勢／筆記具の持ち方／用具の扱い方 ・点画の種類と筆使い ・字形の整え方／読みやすく書くために	P4-5 P6-7 P8-9				適宜
1	学習編					
	4～7月	1 楷書の書き方を確かめよう	漢字の筆使い（毛筆） 漢字の字形（硬筆）	P10-11 P12-13	ア ウ(イ)	2 1
		2 楷書に仮名を交えて書こう	平仮名の筆使いと字形（毛筆） 文字の大きさと配列（毛筆） 楷書と仮名のまとめ（硬筆） 【コラム】文字の歴史を探索（知識事項）	P14-15 P16-17 P18-19 P20-21	ア(ア) ア(ア)・ウ(イ) ウ(ア・イ) ア・イ	2 2 1 1
	9～12月	3 行書の書き方を学ぼう	行書の特徴（毛筆） 点画の方向や形の変化（毛筆） 点画の連続（毛筆） 行書の練習 1（硬筆）	P22-25 P26-27 P28-29 P30-31	イ ウ(イ) ウ(イ) ウ(イ)	2 3 3 2
	1～3月		【コラム】季節のおしり 1（硬筆）	P32-33	ア・イ ア(ア)・ウ(ア・イ)	1
	4～7月	1 行書の書き方を学ぼう	点画の省略（毛筆） 筆順の変化（毛筆） 行書の練習 2（硬筆）	P34-35 P36-37 P38-39	ア ウ(イ) ウ(ア・イ)	3 3 2
	9～12月	2 行書に仮名を交えて書こう	行書と仮名の調和（毛筆） 行書に調和する仮名（毛筆） 行書と仮名のまとめ（硬筆）	P40-41 P42-43 P44-45	ア ア(ア)・ウ(イ) ア(ア)・ウ(ア・イ)	3 3 2
	1～3月	3 楷書か行書かを選択して書こう	楷書と行書の使い分け（硬筆・毛筆） 【コラム】季節のおしり 2（硬筆）	P46-47 P48-49	イ ア・イ ア(ア)・ウ(ア・イ)	2 2
	4～7月	1 目的に応じて効果的に書こう	文字を効果的に使うために（知識事項） 【コラム】デザインと文字（知識事項）	P50-51 P52-53	ア ア	2 2
	9～12月	2 学習したことを生かして書こう	三年間のまとめ（知識事項） 未来に向かって（硬筆・毛筆）	P54-55 P56-57	ア ウ(イ) ウ(ア・イ)	2 2
	1～3月		【発展】先人の文字に学ぶ（知識事項） 【コラム】手書きの力（知識事項）	P58 P119	ア ア	1 1
適宜	資料編					
	日常の書式					
	手紙の書き方／封筒の書き方／はがきの書き方／送り状・願書・のし袋の書き方、原稿用紙の使い方	P60-67	1年ア・イ 2年ア・イ 3年ア	1年ウ(ア・イ) 2年ウ(ア・イ) 3年ウ(ア・イ)	2年B(1)イ・ウ 2年B(2)ウ	適宜
	活用のヒント					
	情報を集めて、整理する／情報を発信する／読書環境を豊かにする／学校行事を盛り上げる	P68-77	1年ア・イ 2年ア・イ 3年ア	1年ウ(ア・イ) 2年ウ(ア・イ) 3年ウ(ア・イ)	1～3年A(1)全／1・2年A(2)ア／ 1～3年B(1)全／1年B(2)イ・ウ／ 3年B(2)イ／1年C(1)カ／ 2・3年C(1)オ／1～3年C(2)ウ	適宜
適宜	書写事典					
	筆・紙・墨・硯ができるまで／常用漢字一覧表／平仮名・片仮名・数字・アルファベット／部分別行書一覧／書き初め（1～3年）／毛筆補充教材	P78-118	1年ア・イ 2年ア・イ 3年ア	1年ウ(ア・イ) 2年ウ(ア・イ) 3年ウ(ア・イ)		適宜

小学校・中学校学習指導要領 ※該当箇所抜粋

学習指導要領 国語〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(2)書写に関する事項

小学校

小学校	字形や文字の組み立てに関する事項	配列や筆記具の選択に関する事項	毛筆に関する事項
第1学年及び第2学年	ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 イ 点画の長さや方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。		
第3学年及び第4学年	ア 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。	イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。	ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。
第5学年及び第6学年		ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。 イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。	ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。
第3指導計画の作成と内容の取扱い	2. 第2の各学年の内容の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕については、次のとおり取り扱うものとする。 (2) 硬筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行うこと。 また、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し、文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、各学年年間30単位時間程度を配当すること。		

中学校

中学校	楷書に関する事項	行書に関する事項	生活への活用と文字文化に関する事項
第1学年	ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。	イ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。	
第2学年		ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。	イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。
第3学年			ア 身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くこと。
第3指導計画の作成と内容の取扱い	2. 第2の各学年の内容の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕については、次のとおり取り扱うものとする。 (2) 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(2)に示す事項については、次のとおり取り扱うこと。 ア 文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。 イ 硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うようにすること。 ウ 書写の指導に配当する授業時数は、第1学年及び第2学年では年間20単位時間程度、第3学年では年間10単位時間程度とすること。		